

ウルリム
響

星 環

特定非営利活動法人

聖公会生野センター機関誌

第75号

2022年6月1日発行

題字：康秀峰

URL <http://www.nskk.org/province/ikuno>

E-mail: nskkikuno@gmail.com

聖公会生野センター

検索

神学教育と現場＝聖公会生野センター30周年を迎えて

司祭 ペテロ 岩城 聡

日本聖公会の神学校は東京の「聖公会神学院」と京都の「ウィリアムス神学館」とがあることはご存じのことと思います。以前、日本聖公会は神学校（牧師養成校）の数はもっと多かったのですが、次第に整理統合されて今の姿になりました。両校とも学生数は少なく、1名から数名といった状態で、学生のいない学年が発生することもあります。聖職志願者がもっと多く与えられることを切望しています。

聖書の世界と私たちの間には2000年という時の隔たりと、パレスチナと日本という場所の隔たりが存在しています。この隔たりを理性で埋める作業が神学です。もちろんそこには信仰に基づく聖霊の働きがなくてはなりません。もう一つ大切なのは、現代に生きる私たちにとっての「宣教の現場」がなければならないということです。それは現代日本社会で虐げられ、苦しんでいる人々との出会いの場です。パレスチナで抑圧されていた人々との出会いの中でキリストの救いの業は成就したからです。

ウィリアムス神学館では、三年次に「宣教と牧会」という教科があります。葬送式や聖婚式などいわゆる「牧会諸式」という礼拝の意味と実際につい

ても学びますが、何よりも大切なのが在日韓国・朝鮮人と被差別部落の歴史と生活の実際、差別の実態を学

ぶフィールドワークです。聖公会生野センターをはじめ、京都駅の南に位置する東九条にある東松の木団地^{*注}の訪問と交流を中心としています。今年は宇治市にあるウトロ平和祈念館の見学を考えています。また、江戸時代に善隣外交を唱え、将軍の代替わり毎に日本に派遣された朝鮮通信使の受け入れ責任者であった雨森芳洲記念館が滋賀県の高月町にあるので、過去の歴史にも学

んでいます。

被差別部落との出会いは、大阪は維新行政によって「リバティ大阪」が休館に追い込まれているため、奈良県にある「水平社博物館」で学ぶことにしています。

皆さんのお祈りに支えられて神学生が育っていくことを願っています。

（いわき・あきら ウィリアムス神学館教授、

大阪教区退職司祭）

*注：東松の木団地

ここは、かつて多くの朝鮮人が川の上に劣悪な環境で住んでいた。長年の運動により、団地が建てられ、住民の住環境が整備され、様々な取り組みがされている。

侵攻と信仰の間で

司祭 アンデレ 松山 健作

ロシアによるウクライナ侵攻が一刻も早く集結することを祈っています。これが始まって以来、侵攻と信仰の関係性において、ことに日韓関係から改めて考える時間を大切にしたいと思っています。

なぜならば、朝鮮半島への日本帝国の侵攻は、ロシアによるウクライナ侵攻に共通点が見られます。ロシア軍に対抗するウクライナの人々の抗戦は、かつての抗日独立を掲げ、自国を守ろうとした朝鮮の人々の闘いを思い起こさせます。

しかし争いは、多くの尊い生命を奪いました。何人たりとも、ウクライナ人として、ロシア人として尊厳ある生命が脅かされてはなりません。神さまが愛され創られた生命を奪う行為が、一刻も早く終結することを祈っています。

さて、2枚の写真を紹介します。いずれも聖職按手式の写真で、朝鮮聖公会史においては記念すべき写真です。1枚目の写真は、1914年に朝鮮人の2名の執事が初めて公会に誕生した際の写真です。1890年9月の宣教開始から24年もの時間を経て、聖職が誕生した喜ばしい写真として刻まれています。

2名の朝鮮人は、キム・ヒジュン金熙俊とク・コンジョ具健祖、そして一緒にもう一人、第三代主教トロッの後ろにいる人物は、朝鮮人ではありません。日本人の宮澤九萬像という人物です。つまり、朝鮮聖公会史における最初の按手式は、朝鮮人と日本人が同時に按手されたということです。

一般的に聖職按手とは、公会に働き人が与えられる喜ばしい時ではありますが、「侵攻と信仰」という観点から考えてみると、いかがでしょうか。日本が朝鮮を植民地にしていたから生まれた光景を、みなさんはどのように眺めるでしょうか。そして一方で、自国を侵略・支配された歴史を持つ朝鮮半島の人々は、どのようにこの一枚を見るのでしょうか。

またもう一枚の写真も1930年朝鮮人の金顯大と日本人の菊田武祐（主教の右側）の執事按手記念です。こちらもやはり、日朝同時按手です。歴史的状況が映し出されている2枚の写真、侵攻と信仰が重なり合う風景なのかもしれません。

そしてもう少し後の時代、1937年日中戦争が開戦し、時局が厳しくなるにつれて朝鮮聖公会では、「皇国臣民の誓詞」（1938年10月～）が『朝鮮聖公会報』に掲載され始めます。

皇国臣民ノ誓詞

（一）

- 一、私共ハ、大日本帝国ノ臣民デアリマス
- 二、私共ハ、心ヲ合ワセテ天皇陛下ニ忠義ヲ尽シマス
- 三、私共ハ、忍苦鍛錬シテ立派ナ強イ国民トナリマス

（二）

- 一、我等ハ皇国臣民ナリ、忠誠以テ君国ニ報ゼン
- 二、我等皇国臣民ハ互ニ信愛協力シ、以テ団結ヲ固クセン
- 三、我等皇国臣民ハ忍苦鍛錬力ヲ養イ以テ皇道ヲ宣揚セン

侵攻は、領土・財産だけでなく、思想上、あるいは宗教上の侵攻でもありました。日韓の歴史は、信仰を育む一方で、また支配の歴史でもあります。信仰を養う上で民族は関係なく、神の国に属していると理解するかもしれませんが、けれども、侵攻、支配、略奪という生命が脅かされる中で、私たちは神の国に属しているゆえに、それらを容認できると断言できるのでしょうか。

往々にして私たちの歴史は、信仰の名のもとに他者のアイデンティティを踏み躪り歩んできたことを省み、歴史的な回顧と反省をもって、共に歩むことのできる世界を築くことができればと願います。

（まつやま・けんさく 金沢聖ヨハネ教会牧師）



聖公会生野センター30周年を前に

セシリヤ 松原 恵美子

30周年おめでとうございます。前身のプレハブの時代からのおつきあいになるので、歳月の流れの早さを感じます。大阪教区の在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会の委員長をしていた6年間には「ウルリム」立ち上げから編集委員をし、理事会に陪席させていただくこともあり、多くの関わり、学びをもつ機会を与えられたことに深く感謝しております。

特に理事会に陪席したときには関東3教区の方々と聖公会生野センターについて話す機会がありました。10周年の記念式のときには、大阪女学院ホールチャペルの前方に関東3教区のみなさんが私の分も席をとってくだ

さり、仲間に入れていただいたこともありました。昨年からの30周年記念講演で李^{イ・チヨンイル}清一先生、前田良彦司祭の講演を聞きましたが、大変懐かしいお名前や出来事ができました。講演を聞きながら生野区にあるプール学院中高に就職し、聖公会生野センターとの出会いがあり、今に活かされていることは、神さまのお導きなのだと、あらためて感じました。

40周年、50周年、多くの方が聖公会生野センターの未来にも関わりをもち、これからも地域に根差し、その時々課題を担うセンターであり続けてほしいと祈り願っています。（まつばら・えみこ 堺聖テモテ教会信徒）

聖公会生野センター30周年

おめでとうございます

フランシス 小山 俊雄

30年前というと1992年ですが、それに先立って関東三教区（北関東、東京、横浜）で「関東三教区生野委員会」が結成され、大阪の生野地域と連携しながら日韓問題にかかわろうと、関東地区で「日韓の歴史を学ぶ会」の開催を中心にした活動を開始しました。

その第1回は「韓国聖公会に学ぶ」（1985年9月1日 講師:井田泉司祭）でした。したがって聖公会生野センターの正式発足前に活動を開始していたのです。そして2019年9月1日に第54回「どうすればいいですか？ 日韓は？ —2019年 韓国人司祭は想う」^{タク・ジウン}（卓志雄司祭）を最後に、新型コロナウィルスの影響もあって開催できないでいます。でもその間に韓国に出かけたり、生野地域を訪ねたり、関東の朝鮮半島と関係ある史跡を訪ねたりしました。

ところで聖公会生野センターは、地道な地域活動に関わり、また呉光現氏など在大韓基督教会の方々がかかわっておられるのが強味です。しかし関東では、地域活動には理解を示しても、聖公会生野センターに期待される日韓・在日問題への対応への理解が十分でないと感じます。「経済的に自立しているから支援しなくてもいいだろう」などという声も聞こえてきます。でも現在、世

界各地で居住地を出ざるを得ない難民が急増していますが、日本はその受け入れはわずかです。しかし、日本はこの受け入れを大幅に増やすことが求められています。聖公会生野センターがこれまでの経験を生かして、日本聖公会が難民問題に深く関わるようアドバイスをしていただきたいと思います。

在日外国人の問題については、私もNCC、外キ協、神奈川外キ連等の活動にかかわっていますが、これは聖公会生野センターの活動をお手伝いし、またそこから学び、経験したことの延長だと思っています。私の生き方の道筋を示してくれた聖公会生野センターに感謝したいと思います。80歳台半ばですから今後はたいしたことはできませんが、次の世代に引き継ぎたいと思います。

関東三教区生野委員会の活動の中心であった菊池邦香さん（川越基督教会）が2月に逝去され、韓国の事情に詳しくまたキリスト教の立場からの理論的な支えであった香山洋人東京教区司祭が退職され、新型コロナウィルスの影響もあって三教区生野委員会の活動ができないのが現状です。関東での活動をの再構築が必要かもしれません。

（こやま・としお 横浜聖アンデレ教会信徒）

聖公会生野センター30周年記念 連続セミナーを通して受けた恵み

聖公会生野センターが発足する一年前の1991年夏、生野聖書労働セミナーという研修に参加させて頂いたのが私と聖公会生野センターとの初めての出会いでした。同センターは新たな宣教の拠点として生野地域に建てられ、今年30周年を迎えます。この30年の歩みを皆さんに知って頂きたいという思いから、日韓聖公会の歴史や聖公会生野センターの設立、その働きを知り学ぶ機会として連続セミナーをすることになりました。

第1回2021年9月24日

【戦前の日韓教会交流について—聖ガブリエル教会の創立者 張準相（チャン・ジュンサン）師の足跡を中心に】

講師：井田泉司祭（京都教区）

第2回11月26日

【生野地域の教会の働きから振り返る＝エキュメニカル運動と聖公会】

講師：李清一（イチョンイル）牧師

（在日大韓基督教会、KCC会館名誉館長）

第3回2022年1月28日

【聖公会生野センター活動初期を振り返る】

講師：宮嶋眞司祭（京都教区）

吳光現総主事

第4回3月18日

【日韓聖公会正式交流から見てきたもの＝出会い、懺悔、和解、協働】

講師：前田良彦司祭（東京教区）

司祭 バルナバ 小林 聡

内容につきましては、日本聖公会大阪教区ホームページから視聴できますので、是非ご覧ください。

井田司祭からはヘブライ人への手紙「自分も一緒に捕らわれているつもりで、牢に捕らわれている人たちの思いやり、また、自分も体を持って生きているのですから、虐待されている人たちのことを思いやりなさい。」という神の言葉を。

李牧師からは、地域のために教派を超えて働くことの恵みを。

宮嶋司祭・吳総主事からは困難を抱えさせられている人との出会いと喜びを。

前田司祭からは実に多くの人に関わり、互いに励まされてきたのかを伝えて頂き、神がいつも共におられることを心に留めることが出来ました。一緒に多文化共生社会を創っていきましょう。

（こばやし・さとし 聖贖主教会牧師、30周年実行委員会事務局）



YouTube
連続セミナーのプレイリスト

ただいま「のりばんレシピ本」作成中！

ルシヤ 古澤(村上)恵依子



皆さんはのりばんで食事をされたことがあるでしょうか？のりばんで提供されている食事の多くは韓国家庭料理です。とてもおいしくていつも以上に箸が進むのですが、美味しいだけでなく、なぜか懐かしいような気がするの、スタッフの方々の愛情がたくさん詰まっているからかもしれません。

スタッフの方々は料理上手で利用者のハルモニ（おばあさん）達に美味しいものを食べてもらいたいとの思いでいつも一生懸命料理を作っておられます。そんな懐かしくて、ホッとする愛情たっぷりののりばんの料理を皆さんにも知ってもらいたいということで、今回レシピ本にすることになりました。

レシピ作りには、聖公会生野センターの理事の一人でもあるこひつじ乳児保育園の園長先生と保育園の調理の先生もメンバーに加わり、月に2回ほどののりばんの調理中にお邪魔して記録をし、記録がたまれば、自分たちで記録を見ながら料理を作る試食会を行う、という何とも楽しい企画です。

とは言え、「いつもこのくらいかな？」「こんなもんかな？」と味付けしている料理を文字にして記録する。なんて事ができるのかな、大変そうだなあと思いましたが、あの美味しい料理が文字になれば、私にもあの味が出せる…かもしれない！と半分は期待に胸を膨らませ、半分は本当にできるのかなと不安を抱きつつ、レシピ作りがスタートしたのでした。

いざスタートしたレシピ作りですが、調理中ののりばんの厨房はいつも大忙し。だって、20人分の食事を作るんですからね。そんな中でもスタッフの方が「（調味料）いれるよー」「見てて」と優しく教えて下さいます。必死にメモを取り、時には「（調味料を）何杯（匙）くらい入れたかね？（笑）」とか、小さじ1杯で山盛り入れたり、「それは小さじじゃなくて大さじ1ですよ（笑）」など、メモを取ったり、写真を撮ったりと必死なのですが、それでも、笑いながら楽しくやっています。

自分たちだけで試食会をやった夜のこと、アワビのお粥を作っていて、

「確か（スタッフの方は）塩をドバッって入れてはったよね。これくらいかな？まだいるかも…。」

と塩を遠慮無く入れていて、呉さんに味見をしてもらったら

「これ塩辛いで！」

「えっ！入れすぎやった！？」

「じゃあ塩小さじ1にしとこ…」

といったやりとりや、

「あれ？このヤンニョムジャン（とうがらし味噌）なんか味が足りない！甘い…？でもレシピ通りなのに…。」

「ごま油足してみる？」

「でもまだ何か足りない…」

と保育園の先生方とあれこれしましたが、結局思い出せなくて、スタッフの方に電話したら、醤油が足りない事が分かり、その後、美味しく出来上がったのでした。

どうするどうする？できるかな？とドキドキ戸惑ったり、塩辛いな、なんか味が足りないなとバタバタしたりの試食会でしたが参加したメンバーは自分たちにも出来たという満足感と美味しい料理を味わうことが出来ました。

また、のりばんでハルモニ達と一緒にご飯を食べていると、その日のメニューによっては、昔はあんなんやった、こんなが大変やったわ〜と苦労してこれた昔話に花が咲くことがあります。ハルモニ達が安心して昔の話を出来る、それを引き出す事ができるのりばんの家庭料理やスタッフの方々の暖かさがここにはあるんだなあと感じます。

レシピ本を通して、少しでも皆さんにノリバンの暖かい雰囲気が伝わるといいなと思っています。レシピ作りはまだまだ道の途上、引き続き頑張ります！

（ふるさわ(むらかみ)・けいこ 大阪聖愛教会信徒）



関西発「2本の映画」 ＝「スープとイデオロギー」「教育と愛国」

今、貴重なドキュメンタリー映画2本が一般公開されている。

呉光現

【スープとイデオロギー】

監督のヤンヨンヒさんは大阪生まれで済州島にルーツのある在日2世。私と同じ出自だ。しかし彼女と私は全く違う人生を送った。日本名を常用し小学校から大学まで公立の学校で育った私と真逆に彼女は小学校から大学まですべて朝鮮学校で学んだ。これは彼女の「家族」をテーマにした作品群の最新作だ。

在日の家に初めて日本人が入る。娘が日本人を夫とした。彼が彼女の家で食したのは、鶏のおなかにたっぷりとニンニク入れたスープである。母はこの料理で彼を受け入れたのだろう。

母、娘、夫を中心としたこの映画は、母が済州43に深く関わっていたことから母娘の済州43の旅に進む。認知症が進んで記憶が薄れていく母と同伴する娘夫婦。

済州43平和公園の一角で娘が母を許した。母娘のしこりが溶け出した。同じシーンで落涙した私。「母と娘の和解」の瞬間だ。



大阪の在日の歴史で避けられない済州43に向き合い、この「家族」が閉ざされていないことを示している。

【教育と愛国】

大阪毎日放送が5年前にテレビ放映した同名の番組



をさらに取材撮影して107分の映画になった。道徳が教科になり、住んでいる地域を愛するのに「パン屋さん」ではなく「和菓子屋さん」に書き換えられ、歴史学の重鎮が「歴史からは学ぶことはない」「ちゃんとした日本人を作る

のが教育（左翼日本人だダメだ）」と淡々と語る。慰安婦問題を記述した教科書を採択した私立学校に抗議はがきが殺到する。それを送った人たちはその教科書を読んでいない。

「立派な日本人」を作ろうとする政治の介入が自由な学びを抑えつける。これは今のロシアの教育であり1945年までの日本の教育の姿だ。

教科書・教育の危機の先頭を走っているのが実は大阪の教育であることは知られているのだろうか。

全国で公開されているこの2つの映画、日本の危機的状况を訴える「教育と愛国」と在日1世女性の生きてきた軌跡が日本と済州に跨る「スープとイデオロギー」。聖公会生野センターの背景を感じるためにも是非とも多くの人に見てほしい作品だ。

(お・くあんひょん 聖公会生野センター総主事)

追悼 菊池邦香さん

今年2月、北関東教区の川越基督教会の菊池さんが天に帰られました。

1984年日韓聖公会の公式交流の「第1回日韓聖公会宣教セミナー」の参加を契機に、日本聖公会で大きな働きをなさった菊池さん。40歳代になって初めて日韓の歴史・在日の現実に出会い、関東3教区生野委員会の核心的な存在になり大きな懸け橋として活躍をされました。まさにかげがえのない方でした。一度自宅に泊めて頂いた時などは、まるで少



年のような無邪気さで手作りのキムチを食卓に出してくれたことが思い出されます。

さらに聖ガブリエル教会の復興・聖公会生野センターの開設に力を尽くしてくださり、聖公会生野センターが苦難にあった時には大阪まで駆けつけてくれたことは忘れることはできません。

今は神様の身許で永遠の平安にあり、いつかそこで再会できることを祈っています。

(写真は1984年の第1回日韓セミナーでの菊池さん)

呉光現 記

2021年度会費納入・献金納入の方々
(2021年4月1日～2022年3月31日 順不同、敬称略)

昨年も多くの方々からご支援頂きました。教会でまとめてご送金くださったところもありますのですべてのご支援くださった方が載っているとは限りませんがご了承ください。
今年もよろしくお願いします。複数回ご献金くださった方々も記載は一度にさせて頂きました。

【正会費納入者】

前田良彦/林香代子/鄭雅英/佐々田国昭/伊藤美佐子/大西修/井田泉/熊取谷志郎/三浦恒久/城下彰/小山俊雄/出口弘/卓志雄/春山宗治/黒田裕/奥晋一朗/丹田則史/竹林徑一/呉光現/松原恵美子/小出裕司/鈴木憲二/堀江裕一/加納佳世子/佐藤耕一/齊藤壹/木村幸夫/博愛社/古澤恵依子/古澤秀利/岩城聡/ウイルソンウォーレン/青柳美知子/宮嶋眞/柳時京/金弘明/鍋島久美子/大橋襄/宗像千代子/奥田哲夫/林真澄/春名英夫/小林聡/磯晴久/

【後援会費納入者】

古谷美子/近澤淑子/関ノリ子/小山紀巳子/寺本真名/林芳子/目崎宗世/増岡広宣/神谷尚孝/若宮英生/榎本房江/申英子/後藤聡/榎本房代/武藤六治/寺本真名/二見伸吾/目崎宗世/松居勲/林芳子/大畑善道/尾崎茂雄/アジア国際夏期学校/植松誠/宮脇一郎/松本潤子/浮田真理/大西憲子/野知卓司/高橋千恵子/堺聖テモテ教会/服部喜代司/服部慶子/高田日出夫・恭子/河野芳孝/大野寿美/博愛の園/泉迪子/福永芽久美/本井栄子/加納実/井上浩行/高見久江/黒川純栄/福田順子/林正樹/森中央/青柳亜矢/今西時子/野知卓司/竹林敏子/奥和子/東敏勝/辻潤/内田照子/高道千恵子/上田浩子/三宅亨子/野上千春/小野田芳大/古澤陽代/山口善彦/早川文子/辻彩乃/藤田法子/富谷普/大阪聖アンデレ教会婦人会/田中廉/三宅亨子/上村玉栄/石井英隆/森中みよ子/鈴木靖雄/栗井茂明/内宮隆夫/相楽弘子/桜井揚子/若村正博/辻節子/香西一恵/川村輝夫/長野加代子/大野吾子/坪田敬子/樋口敏夫/前原潔/今村祥子/尼子ユリコ/込山章/太田昌子/

【献金納入者】

林香代子/北関東教区/立教女学院/芦田聡/京都伝道区信徒伝道協議会/匿名/林炳澤/東京聖テモテ教会奉仕会/豊田商店/奥和子/千松清美/川口基督教会/大野寿美/福永芽久美/畑野めぐみ/佐竹純子/ウイルソンウォーレン/石橋聖トマス教会/米満司郎/東豊中ミカエル教会/宗像千代子/富谷普/西宮聖ペテロ教会婦人会/富田林聖アグネス教会/堺聖テモテ教会男性の会

【クリスマス献金納付者】

岸和田復活教会/聖三一幼稚園/城下彰/奥和子/寺本真名/保坂久代/前田良彦/大阪聖ヨハネ教会/増岡広宣/日本聖公会聖光教会/目崎宗世/草ヶ江幼稚園/宮古島聖ヤコブ教会/矢萩新一/武藤謙一/石垣慶搜・久子/川口基督教会婦人会/伊藤美佐子/平安女学院中高宗教センター/京都復活教会/匿名/松戸復活教会/富山聖マリア教会/三条聖母マリア教会/申英子/プール学院中学校・高等学校/橋本祥子/富田林聖アグネス教会/聖ルンヤ教会/尼崎聖ステパノ教会/井上るみ子/大阪教区婦人会/尼崎聖ステパノ教会婦人会/佐々木晶子/柳時京/大阪教区連合男子会/聖ルカ教会/高見久江/今西時子/三宅亨子/青柳美知子/石井英隆/奥和子/芦屋聖マルコ教会/林真澄/鈴木憲二/恵我ノ荘聖マタイ教会/東敏勝・直子/大阪聖ヨハネ教会/篠田茜/千松清美/高田日出夫・恭子/加納佳世子/聖バルナバ病院礼拝堂/大阪聖愛教会

【分担金】

大阪教区/京都教区/聖ガブリエル教会

2021年度会計報告

(単位：円)

	勘定科目	2021年度会計	備 考
収入	受託事業収入	10,799,864	
	利用者負担金収入	2,747,940	
	会費収入	828,000	
	分担金収入	1,230,000	
	献金（寄付金）収入	2,924,689	
	助成金収入等	549,219	
	雑 収 入	70,953	
	経常収入計（1）	19,150,665	
支出	事業費支出	3,676,686	
	事務費支出	3,571,001	
	人件費支出	14,001,068	
	積立金	180,000	
	経常支出計（2）	21,428,755	
	経常活動資金収支差額（3）=（1）-（2）	△ 2,278,090	（1）-（2）

聖公会生野センター 2021年度会計報告

特別会計：30周年記念事業

(単位：円)

区分		勘定科目	勘定科目中項目	2021年度会計	備 考
		3 0 周年事業収入		1,388,400	
			大阪教区	446,000	
			他教区	502,000	
			一般	440,400	
		3 0 周年事業支出		278,433	
			事務費	78,997	
			通信費	95,506	
			セミナー費	80,000	
			振込手数料	23,930	
		収支差額		1,109,967	

2022年は開設30周年を迎えます。記念の募金活動を推進中です（目標600万円、2023年3月末まで）。目標までまだまだ頑張りますので今年度もよろしくお願いいたします。

会費納入のお願い

「主の平和が皆様と共にありますように。いつも聖公会生野センターの働きを憶え、お支え下さることを感謝致します。私たちは、隣人愛の精神に基づき、生野地域の人々に仕え、人々と共に歩んで参りました。センターの働きは、住民の4人に一人が在日韓国・朝鮮人である大阪生野地域を中心に、日韓教会の懸け橋の働き、またすべての人が大切にされる社会の実現をめざし、事業として在日高齢者や障がい者の居場所、障がい者の美術・音楽などの文化事業と多岐に及んでいます。また地域では行政や地域諸団体と共に「人に

送金方法

【ゆうちょ銀行（郵便振替）】

口座番号 00910-1-321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

※郵貯銀行以外からご送金の場合

〇九九（ゼロキュウキュウ）店（099） 当座 0321780

口座名 特定非営利活動法人聖公会生野センター

自由献金（ご寄付）は随時受け付けております

優しい街づくり」に取り組んでいます。

聖公会とのつながりでは、大阪教区在日韓国・朝鮮人宣教協働委員会、管区日韓協働委員会の働きと協働しています。

これからもさらに地域の中でのネットワーク作りに力を入れて歩みます、聖公会生野センターの働きが多くの人に支えられていることを感謝しつつ、今後とも皆様のお祈りとご支援をよろしくお願いいたします。

2022年 復活節 理事長 磯 晴久／総主事 呉光現

今年より、クレジットカードで会費納入・献金ができるようになりました（ホームページからお手続きください）



- ▼正会員：一口 10,000円（何口でも結構です）
※法人の事業の決定に参加できます
- ▼後援会員A：一口 3,000円（何口でも結構です）
- ▼後援会員B：一口 5,000円（何口でも結構です）
- ▼維持会員：A 30,000円／B 50,000円／C 100,000円

※新規に会員になられる方はお名前、ご住所、所属等をご記入の上、郵便・FAX・emailでお送りください。

- ・email：nskkikuno@gmail.com
- ・FAX：06-6224-7869
- ・郵送：〒544-0002 大阪市生野区小路3-11-19

お名前	所 属 ・ 教 会
ご住所 〒	
正会員・後援会員（A・B）・維持会員（A・B・C）	

発行所：聖公会生野センター

〒544-0002

大阪市生野区小路3丁目11番19号

発行人：磯 晴久

編集人：呉 光現

TEL 06-6754-4356

FAX 06-6224-7856

E-Mail nskkikuno@gmail.com

<http://www.nskk.org/province/ikuno>